

U-GJSセミナー

「変わる時代、変わるツール、変わる執筆言語」

日本が国際化へと進む流れの中で、日本を研究する留学生はどのように日本語で論文を書く方法を身に付け、実践してきたのか。1980～90年代の留学生と2010～20年代の留学生。ポーランドとスロベニアから来日し、異なる時代に留学生活を経験した研究者とともに、日本語で研究を執筆・発表すること、その変化や意義について語り合う。

参加費
無料

6.20 土 14:30-17:00

会場

国際日本文化研究センター
第6共同研究室
(Zoomによるハイブリッド開催)

Guest Speakers



マウゴジャータ・ドウトカ

ポーランド生まれ。東洋言語学修士（ワルシャワ大学）、文学修士（岡山大学）。大阪大学博士課程単位取得退学。日本の近代史、文化交流史専攻。司書の資格を取得（東洋大学）、公共図書館勤務。還暦を迎えてから大阪大学の研究生になり、研究成果の総まとめを目指して奮闘中。



ニーナ・ハビャン・ビシャレアル

スロベニア生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科文学部にて博士号取得。2026年4月に大江健三郎文庫の助教に着任。専門は近現代日本文学、20世紀後半の紀行文学、比較文学。



Facilitator

ザハラ・モハッラミプール

国際日本文化研究センター上廣国際日本学研究部門 特任助教

桂坂中央行きのバスにて「桂坂小学校前」または「花の舞公園前」下車



アクセス地図



申し込みフォーム

登録締切:

対面: 6月14日 (日)

Zoom: 6月18日 (木)



U-GJS
国際日本文化研究センター
上廣国際日本学研究部門
Public Research Division for Global Japanese Studies



歴史家
ワークショップ
Historians' Workshop

主催: 国際日本文化研究センター上廣国際日本学研究部門 共催: 歴史家ワークショップ (多言語論文執筆シリーズ)
お問い合わせ: 国際日本文化研究センター上廣国際日本学研究部門 ugjs-info@nichibun.ac.jp